

神社の杜 (十二)

ビクターセンター 所長 片柳 茂生

珍しい客

みなさんが暮らしている街では、普通に見られるスズメ。群れでやって来てはチュンチュン、チュンチュンといつも大騒ぎをしている。ところがそんなスズメが、ここ御岳山で、見られたら大変珍しいことなんです。

スズメは日本全土で普通に見られる鳥で、人間の住んでいるところなら海の近くから山地まで、いたる処に生息しています。おもしろいことに、スズメの生活環境から人間がいなくなるとスズメの姿も消えるといわれているのです。人間とスズメには深いかわり合いがあるようです。

御岳山には昔から御師の集落があり、スズメが生息していてもおかしくない環境を持っています。それなのにどうしてスズメがいらないのでしょうか。九〇〇メートルある山の上は



暮らしていくのか、または麓の滝本の集落と山上の集落の間に家が一軒もなく登って来ることができないのか、どちらも理由として考えられませんが、もし滝本からの参道に家がつかないように建っていたならば、今頃山の上でチュンチュン大騒ぎをしていたかもしれない。

そのような障害をものともせず、昨年の五月に一羽のスズメが御岳山にやって来ました。

ビクターセンター前の電線にとまって鳴いているのです。最初は目と耳を疑いましたが、やはりそれはスズメ以外の何者でもありませんでした。ほかにも仲間がいるのではとあたりを見渡しましたが、電線にとまっていた

一羽以外はいませんでした。新しく住み良い土地を求める開拓者精神旺盛のスズメだったのか、それとも群れとはぐれ迷ってしまったおっちょこちよいのスズメだったのかは定かではありませんが、御岳山にやって来たことは事実です。

たった一日、しかも朝のうちの数時間だけ訪れた珍しいお客様でした。



神社を守る

ア・ウンの一対

置かれたものが、次第に神社の参道や社頭に見られるようになりました。今では一対で単に狛犬と呼ばれていますが、向かって右側を獅子、左を狛犬と区別して考えていたようで、獅子は口を開け(阿)、狛犬は角を持ち口を閉じ(吽)ているものが多いようです。

写真は今度修復のなった皇御孫命社前の狛犬です。尻尾を巻いて豚の像にも見え大変珍しい像です。また、当社では狛犬でなく狼(お犬様)が多く、神様のお使い(御眷属)とされています。

狛(高麗)犬の原形は、古代オリエントの守護獣といわれ、それがシルクロードを経て中国や朝鮮半島より日本に伝わったと考えられます。

当初は宮中などで威儀を整え魔を避けるために

あとがき

今年の冬は暮から降雨なく、昨年の大雪とはうって変わってのカラカラ天気。雪のない節分祭を経験しました。それでも二月十一日は大雪と、いつもの御岳山の冬景色、雪解け水と野鳥のさえずりとともに十二号をお届け致します。

田辺青梅市長、齋藤慎一先生、水中講の宮岡様志村様にはお忙しい中玉稿を賜わり誠にありがとうございます。

四・五月は参拝の好期、大勢の皆様のご来山をお待ち致します。

平成十一年三月八日発行

編集 武蔵御嶽神社

〔非売品〕

印刷 ㈱成和印刷 〇四六(七)八五〇

印刷 ㈱成和印刷